

今、国内外から問い直される日本の戦争責任

— 新政権下の教科書問題と昭和天皇の戦後責任問題 —

高嶋 ^{のびよし} 伸欣 (元琉球大学)

① まだまだ解明が必要な12月8日開戦の意味

- (1) 「真珠湾から始まった太平洋戦争」という間違った認識の深刻さ (P-1)
- (2) 日本軍の本音とその通りの行動・住民虐殺 (P-1~3)
- (3) 現地で語り継がれる「3年8か月」と“原爆観ギャップ” (P-4)
- (4) 12・8のもう一つの真実 —「日タイ戦争」 (P-5~9)

② 隠し続けられている昭和天皇の戦争責任と戦後責任

- (1) 「日タイ戦争」による天皇の戦犯責任が隠されて68年！ (P-10)
- (2) RBC制作ドキュメント『遅すぎた聖断』が問う天皇の戦争責任 (P-11)
- (3) 沖縄をアメリカに売り渡した「天皇メッセージ」 (P-12)
- (4) 日本全国をアメリカの属領同然にした天皇の政治介入 (P-13)

③ 新政権下でも踏襲されつつある歴史歪曲の教科書検定問題

- (1) 未決の‘07年沖縄戦「集団自決」記述歪曲検定問題 (P-14・15)
- (2) その後もくり返されている沖縄戦記述のでたらめ検定 (P-16)
- (3) 沖縄県民の怒りが暴いた文科大臣答弁のウソ (P-17~20)

④ 北海道にも求められる歴史歪曲阻止と真実究明の取り組み (P-21・22)